長野県坂城町議会

さかき 議会だより

2025
No.178
令和7年10月31日

8年ぶり リアル開催

9月定例会

- 令和6年度決算を認定…… 2ページ
- ここが聞きたい！一般質問7名 ……10ページ

第3回定例会（9月）決算議会

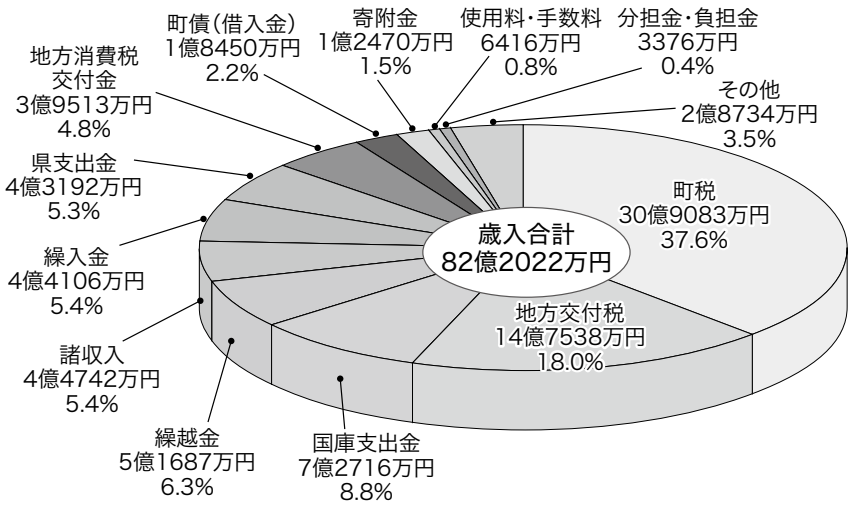
万円を認定！

歳出前年度比14.0％増が完了、公共施設予約管理システム等導入～

令和7年第3回定例会は、9月1日から22日までの22日間の会期で開催しました。議案の主なものは、令和6年度の一般会計及び各特別会計・公営企業会計決算の認定、固定資産評価審査委員会委員及び千曲市・坂城町等公平委員会委員の人事案件、条例の一部改正のほか、町から提出された令和7年度一般会計及び特別会計補正予算など原案のとおり可決しました。

一般質問では、7人の議員が登壇し町政をただしました。

歳入

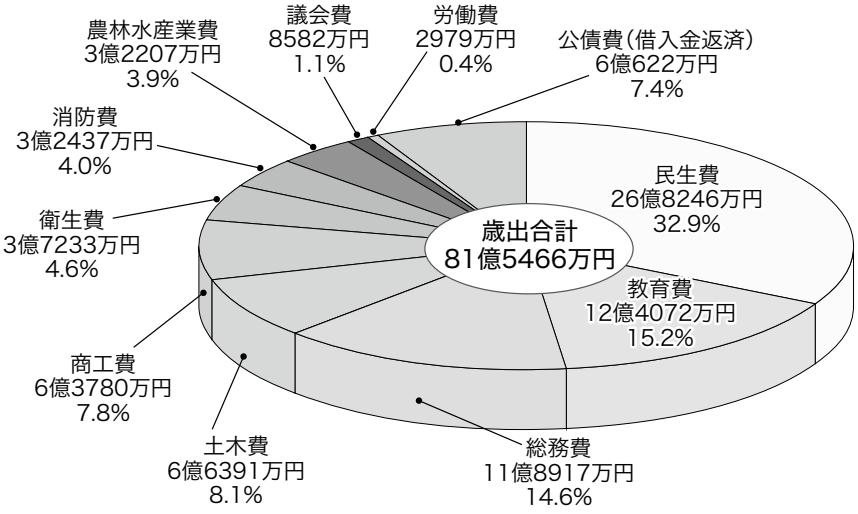


歳入のうち、**町税**は法人町民税の増収等により、前年度と比較しプラス15・8％、約4億2100万円の増額となった。また、**地方特例交付金**は、国定額減税による減収分が補填され、約5900万円の増額となった。**地方交付税**は、普通交付税の算定基礎となる基準財政収入額が前年度より増額算定となり交付額は減額、マイナス2・7％、約4100万円の減額となった。**国庫支出金**は、自治体システムの標準化に係る補助金等が交付されたが、橋梁修繕事業等に係る社会資本整備総合交付金の減額等により、約5400万円の減額となった。

一般会計

歳入総額	82億2021万7670円
歳出総額	81億5466万0631円
差引額※	6555万7039円

歳出



歳出は、保健センターと老人福祉センターを複合化し、幅広い世代が集う健康・福祉・子育て等の新たな拠点となる複合施設建設事業において、5年度に策定した「基本構想・基本計画」を基に「基本設計」をまとめた。

ハード事業では、文化センター耐震補強及び大規模改修事業に約5億1300万円、昭和橋等の橋梁修繕事業に約5800万円、水門の自動化を進める農業水路等長寿命化防災減災事業に約4200万円などを支出した。

デジタル化事業では、住民サービス向上のため公共施設予約管理システム等を導入、テクノセンター施設ZEB化改修事業や小学校150周年記念事業への支援を実施した。

歳出総額81億5466

令和６年度一般会計決算
～文化センター耐震補強及び大規模改修工事

特別会計

会　計　名	歳　　入	対前年度増減率	歳　　出	対前年度増減率
国民健康保険	12億2996万円	△ 2.3%	12億2445万円	△ 2.6%
介　護　保　険	13億6003万円	△ 0.4%	13億5877万円	△ 0.2%
後期高齢者医療	2億8563万円	14.1%	2億8533万円	13.9%
合　　計	28億7562万円	0.1%	28億6855万円	0.0%

※ 差引額
　各会計の差引額は、決算剰余金として翌年度へ繰り越すほか、一部基金に積み立てる。

（国民健康保険・介護保険・後期高齢者医療）

歳入総額　28億7561万5787円
歳出総額　28億6854万6689円
差引額※　706万9098円

公営企業会計

下水道事業会計	収入決算額	支出決算額	収支差額
収益的収支	6億　156万円	5億4540万円	5616万円
資本的収支	1億 8185万円	4億2992万円	△ 2億4807万円

※資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額2億4,807万円は、当年度分消費税資本的収支調整額及び損益勘定留保資金等で補填。

下水道事業会計

主に、中之条、上平地区の舗装本復旧工事及び坂城更埴バイパス関連で、既設下水道管路の移設工事等を実施し、６年度末で供用面積は573 ha、下水道整備率は95％、普及率98％となった。

ネットで利用申込！公共施設予約管理システム

決算審査報告

監査委員　春日英次
　　大森茂彦

６年度一般会計、特別会計及び財政援助団体（商工会・中小企業能力開発学院）の決算審査を、７月22日から７月31日まで実施した。財政健全化判断比率の審査を８月18日に行った。

審査結果

審査に付された各会計歳入歳出決算及び附属書類は、いずれも関係法令の定める様式に従って作成されており、決算の計数は諸帳簿と符合して正確であることを認めた。

また、財政健全化判断比率及び算定書類は、いずれも関係法令の定める様式に従って作成されており、比率の計数は算定書類と符合して正確であることを認めた。

委員会審査

一般会計

総務産業・社会文教常任委員会では、６年度一般会計決算の各項目について、９月12日、16日の２日間で、所管による関係資料をもとに慎重かつ詳細に審査を実施しました。

その内容について、両委員長等から審査報告があり、主な内容は以下のとおりとなりました。

総務産業常任委員会
乗合タクシー利用者は延べ３３５４人

委員長　玉川清史（たまがわきよふみ）

歳入

問　法人町民税が、前年比76・５％増加の内容は。

答　一社が全体の約68％の納税、上位５社で全体の約81％を納めている。多くの事業所が業績良好であった。

問　長野県地方税滞納整理機構への移管件数と費用は。

答　滞納整理機構への移管件数は12件、負担金は１６２万４千円で、均等割・件数割・前前年度の徴収実績により算出される。

歳出

総務課

問　職員採用試験の応募者数と採用者数は。

答　６年度の職員採用試験への応募者数は17名、採用者数は７名である。

企画政策課

問　スマートエネルギー設備設置補助金の内訳は。

答　太陽光発電システム23件、２１１万１千円。蓄電システム23件、４６０万円。電気自動車等給電設備１件、10万円。エネルギー管理システム12件、42万３千円である。

問　ふるさと寄附金の寄附金額は。

答　６年度の寄附総額は、８２８８万９千円である。

問　複合施設建設に向け実施したワークショップは、どの分野から参加したか。

答　身体・精神・知的の障がい者団体の代表者等、シニアクラブ連合会役員等、介護予防や子どもの見守りなどのボランティア、子育て支援センターを利用されている方々の４分野の各グループでそれぞれ実施した。

商工農林課

問　新規就農者確保に向けた取り組みは。

答　長野農業農村支援センターと連携し、随時就農相談を行うほか、長野県内市町村・ＪＡ合同就農相談会（東京都）への参加や、町単独の就農相談会（名古屋市）を開催した。

問　有害鳥獣の捕獲実績は。

答　ニホンジカ75頭、イノシシ55頭、ハクビシン５頭、アナグマ５頭、タヌキ５頭、キツネ10頭、クマ５頭、合計１６０頭である。

問　里山は有害獣の住処となっているが、整備の現状は。

答　優先順位の高い林班から森林所有者に意向調査を行った後に「三者協定」を締結、順次、森林環境譲与税を活用し森林の整備を進めている。

問　レンタサイクルの利用状況は。

答　６年度は、新たに電動アシスト付き自転車を10台導入するなど取り組みを行い、44件の利用があった。

災害用マンホールトイレ
（村上小学校）

建設課

問　空き家バンクのこれまでの実績は。

答　延べ88件が空き家バンクに登録され、うち48件が成約である。内訳は、売買が33件、賃貸が15件である。

問　６年度の乗合タクシーの利用実績は。

答　登録者数が３９０人、利用者数は延べ３３５４人である。

問　村上小学校と坂城小学校のマンホールトイレの設置数は。

答　各５基を設置している。

社会文教常任委員会

坂城中学校施設改修

副委員長　宮入健誠（みやいりたけし）

住民環境課

問　昨年中の特殊詐欺被害認知件数と被害内容、今後の対策は。

答　オレオレ詐欺・架空請求が4件、SNS型投資詐欺が2件である。防犯協会、消費者の会と連携して、金融機関で特殊詐欺啓発を図るほか、特殊詐欺防止装置取付費補助金についても周知し、設置を促進していく。

問　リサイクルセンターが完成することによる、葛尾組合負担金についての変化は。

答　令和9年度に新しい製品プラスチックのリサイクルセンターが稼働することにより、運営費が発生する。また、建設費用の償還分が増額となる見込みである。

問　消防団における防災士登録人数は。

答　平成29年度から令和6年度までで、消防団本部及び分団長以上の階級を経験した99人が登録をされている。

福祉健康課

問　民生委員が受けた相談支援の内容と対応方法、なり手不足について確保への考えは。

答　日常的な支援や介護・福祉サービスなど、高齢者に関することが主であるが、民生委員は、住民と行政をつなぐ役割を担っており、内容に応じて町行政へとつないでいただいている。なり手不足については、定年延長などにより、若年層のなり手がいないのは全国的な傾向である。区長の推薦による選出以外の方法も検討が必要と考えている。

問　町内に放課後等デイサービスの事業所は何箇所あるか。

答　坂城・南条・村上地区にそれぞれ1カ所ずつ、計3カ所である。

問　福祉タクシー事業の周知方法は。

答　身体障害者手帳や特別児童扶養手当など、新規対象となった方には、窓口において案内し、毎年3月には該当者に申請書を送付している。

問　子育てアプリの利用状況は。

答　9月8日時点で458名の登録がある。乳幼児健診や予防接種に関するお知らせに加え、よりタイムリーな情報発信に努めている。

問　食育・健康づくり推進事業の児童館食育健康教室の内容は。

答　夏休み中に3館の児童館に管理栄養士が出向き、子どもたちに体の成長と野菜の必要性など食に関する話や、試食体験を行っている。

教育文化課

問　保育園におけるデジタル化の状況は。

答　昨年度から、園からの一斉連絡アプリを導入した。今後も遅刻・早退等連絡のデジタル化を検討するなど、保護者や保育士の負担軽減を図っていく。

問　奨学金について、受給対象の基準と人数は。

答　受給条件として、町内在住であることや、能力があるにもかかわらず経済的理由によって就学困難な学生または生徒であることなどがある。6年度は、高校生6名、大学生1名の計7名が利用した。

問　中学校総務一般経費の施設改修工事の内訳は。

答　中学校のテニスコート人工芝張替え、体育館トイレ洋式化、給食室エアコン設置工事、正面玄関の時計修理工事を実施した。

問　図書館の年間利用者数は。

答　6年度の図書館貸出利用者数は1万5811人で、一日平均52・4人の利用である。

問　育成会で管理している公園箇所数及び遊具の数は。また、遊園地遊具管理等補助金の内容は。

答　遊具を管理する育成会は14育成会、遊具は16か所84基である。補助金対象となるのは、育成会で管理している公園遊具の点検や新設、撤去、修繕等の管理費用で、事業費の1／2を補助、補助金の上限額は5万円である。

問　学校給食の町内産野菜の使用量は。

答　野菜全体の約12％が町内産である。

人工芝張替えのテニスコート
（坂城中学校）

公営企業会計 委員会審査 特別会計

各常任委員会では、付託された６年度の３特別会計及び公営企業会計について、慎重かつ詳細に審査を実施しました。その内容について、両委員長等から審査報告があり、主な内容は以下のとおりとなりました。

国民健康保険

社会文教常任副委員長　宮入（みやいり）健誠（たけし）

特定健診受診率　57・7％（速報値）

問　１人当たり医療費の金額と県内順位は。

答　６年度速報値では、１人当たり医療費41万１３５３円で、高い方から40番目である。

問　出産育児一時金の該当者数は。

答　６年度は２名である。

問　人間ドック補助金の件数は。

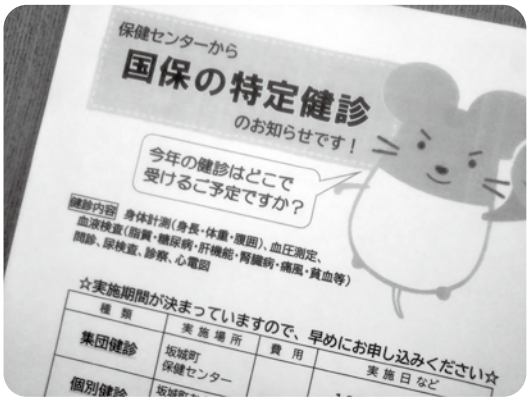
答　日帰りは41件で、１泊２日は２件である。

問　６年度特定健診受診率は。

答　速報値で57・７％である。

問　特定保健指導の内容は。

答　40歳から74歳の方に実施した特定健診結果に基づき、内臓脂肪の蓄積に起因するリスクを有する方を「積極的支援」「動機付け支援」に分類し、保健師や管理栄養士が保健指導を行うもので、受診の必要な方には医療の受診勧奨を、受診レベルでない方には減量を目標に生活習慣病の発症予防の支援を行うものである。



国保特定健診

介護保険

社会文教常任副委員長　宮入健誠

地域住民グループ支援事業　介護予防に取り組む

問　一般介護予防事業費の地域住民グループ支援事業の数は。

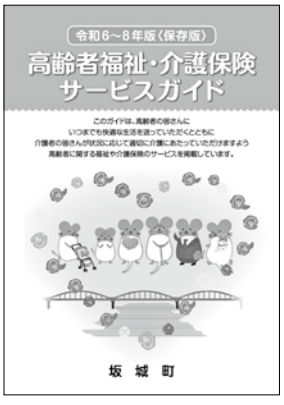
答　地域で自主的に介護予防に取り組むグループは14である。

問　地域介護予防活動支援事業、高齢者把握事業の内容は。

答　地域介護予防活動支援事業は地域住民グループや生きがい活動の場に、有資格者を派遣し様々な活動に繋げている。高齢者把握事業は、高齢者の実情把握と円滑な事業利用を結び付けるものである。

問　地域住民グループ支援事業と、生きがいと健康づくり推進事業の違いは。

答　地域住民グループ支援は、地域にグループがない地区の新たなグループの立ち上げやグループの継続支援をするもので、生きがいと健康づくり推進事業は、シニアクラブが主体となり高齢者の生きがいづくりや健康づくりに取り組んでいるものである。



「高齢者福祉・介護保険サービスガイド」
QR コードからご覧になれます。

後期高齢者医療

社会文教常任副委員長　宮入健誠

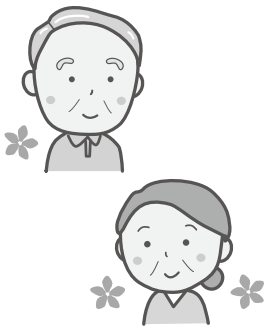
後期高齢者医療保険料について

問　普通徴収保険料の収入未済額の人数は。

答　2名である。

問　後期高齢者医療広域連合納付金326万2千円の減額理由は。

答　後期高齢者基盤安定事業の負担金を計上しているもので、予算は軽減対象人数により変動し、見込みより減少したことから減額補正した。



後期高齢者医療資格確認書

有効期限　令和 8 年 7月31日
交付年月日　令和 ○年 ○月 ○日

被保険者番号	○○○○○○○○		
被保険者 住所	○○市○○町○○番地○○		
被保険者 氏名	後期　太郎	性別	男
生年月日	昭和 ○年 ○月 ○日		
資格取得年月日	令和 ○年 ○月 ○日		
負担割合 発効期日	○割 令和 ○年 ○月 ○日		
限度区分 発効期日			
長期入院該当日			
特定疾病区分 発効期日			
保険者番号並びに保険者名称及び印	長野県後期高齢者医療広域連合　印		

資格確認書の見本

下水道事業会計

総務産業常任委員長　玉川清史（たまがわきよふみ）

下水道整備率95・3％　接続人口の割合70・4％

問　下水道接続率は。

答　下水道区域内人口のうち、下水道に接続している人口の割合は70・4％である。

問　下水道整備率の状況は。

答　整備率は95・3％であるが、令和7年度から令和8年度に葛尾組合及び坂城インター工業団地の工事を予定しており、面的な整備は概ね完了する見込みである。

問　県外で下水道事故があったが、町内で同様の事故が発生する可能性はあるのか。

答　業者委託による点検及び職員の目視点検を行ったが、現状問題はなかった。

管路点検

一般会計と特別会計の違いは？

一般会計は、地方公共団体において町民のサービスの提供を始めとする行政運営の基本的な経費（福祉・教育・土木など）を計上している会計です。

一方で**特別会計**は、事業目的を限定し、特定の収入をもって特定の支出に充てるため、一般会計と区別して経理する必要がある場合に設けられる会計です。

坂城町では6年度に、国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療の3会計がありました。

公営企業会計は？

公営企業会計は、事業収入を主な財源として、独立採算の原則により特定の事業を経理する会計です。複式簿記を採用し企業活動を正確に把握できます。

下水道事業会計には2つの財布があり、使用料収入や施設の維持管理費などに係る財布を収益的収支、下水道施設の整備や改修などに係る財布を資本的収支として区分しています。

坂城町では下水道事業を、6年度より特別会計から公営企業会計に変更しました。

表紙の写真

10月3日、4日に開催された「さかきモノづくり展」は、「ものづくりのまち坂城」を象徴する事業である。

8年ぶりのリアル展示会「さかきで沸く・わく企業体験」は、町内製造企業が持つ優れたモノづくりの技術を発信し、ビジネスチャンスに繋げ、地域経済の発展と企業躍進の助力となる。

次世代を担う子どもたちに、ものづくりの魅力を伝え興味を培い、将来の製造業を支える人材を育んでいくことが望まれる。

（文：中村（なかむら）　忠靖（ただやす））

第3回定例会 議案審議

条例改正等

◆町道路線の廃止

町道0294号線（中之条）

新複合施設建設に伴う町道の付け替えによる。

◆坂城町の特定の事務を取り扱う郵便局の指定

住民サービスの拠点を増やし、利便性の向上を図るため、「地方公共団体の特定の事務の郵便局における取扱いに関する法律」に基づき、マイナンバーカードの電子証明書の更新など手続きを行う町内2か所の郵便局を指定する。

・坂城郵便局
・南条郵便局

◆坂城町職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例

職員から妊娠、出産等についての申出があった場合及び職員の子が3歳になるまでの適切な時期に、職員に対して、仕事と育児の両立に資する制度等の情報提供を行うなど、必要な措置を講ずることを規定するもの。

◆坂城町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例

子を養育するための部分休業について、現行の1日につき2時間を超えない範囲内での取得形態に加え、1年につき条例で定める時間（10日相当）を超えない範囲内での取得形態を設けるなど、取得方法の拡充を図るもの。

廃止となる町道（中之条）

坂城郵便局（立町）

人事（敬称略）

■固定資産評価審査委員会委員（任期3年）
西澤　豊子（日名沢）新任

■千曲市・坂城町等公平委員会委員（任期4年）
山崎　典久（千曲市）再任

令和7年度 一般会計補正予算（主なもの）

◆第3号補正額　5,596万円

歳入

○地方交付税	3億5,220万円
○国庫支出金	8,992万円
○前年度繰越金	429万円
○町債	630万円
○基金等からの繰入金	▲3億9,948万円

歳出

○温泉施設持続化負担金	1,400万円
○定額減税調整給付事業費	3,446万円
○社会福祉施設等物価高騰対策支援金	286万円
○道路維持工事費	600万円
○町道及び林道の除雪に要する費用	1,300万円
○64号橋道路改良に係る橋梁修繕事業	600万円
○水路改良工事費	554万円
○村上小学校 緊急通報付きインターフォン整備事業	454万円

第３回定例会（９月）の審議結果

1 全会一致で可決された議案

(1) 専決処分
① 和解及び損害賠償額の決定（２件）

(2) 人事
① 坂城町固定資産評価審査委員会委員の選任
② 千曲市・坂城町等公平委員会委員の選任

(3) 条例
① 坂城町職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部改正
② 坂城町職員の育児休業等に関する条例の一部改正

(4) 令和６年度歳入歳出決算の認定
① 一般会計
② 介護保険特別会計
③ 後期高齢者医療特別会計
④ 下水道事業会計

(5) 令和７年度予算
① 一般会計補正予算（第３号）
② 国民健康保険特別会計補正予算（第１号）
③ 介護保険特別会計補正予算（第１号）
④ 後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）

(6) 意見書
① 地方財政の充実・強化に関する意見書
②「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書

(7) その他
① 町道路線の廃止

2 賛否が分かれた議案

（〇は賛成、×は反対）

（議案名）	（議員氏名）	結果	大日向進也	塚田舞	水出康成	宮入健誠	中村忠靖	星哲夫	玉川清史	山城峻一	祢津明子	朝倉国勝	滝沢幸映	大森茂彦	中嶋登
令和６年度歳入歳出決算の認定	国民健康保険特別会計	可決	〇	〇	〇	〇	〇	〇	×	欠席	〇	〇	〇	×（反対討論）	議長職
条例改正等	坂城町の特定の事務を取り扱う郵便局の指定	可決	〇	〇	〇	〇	〇	〇	×	欠席	〇	〇	〇	×	
意見書	高額療養費の自己負担上限額を引き上げないことを求める意見書	可決	〇	〇	×（反対討論）	〇	×	〇	〇	欠席	〇	〇	〇	〇	

3 全会一致で否決された議案……なし

4 陳情審査結果

	件名	提出者	付託常任委員会及び委員会審査結果	本会議における議決結果
陳情	高額療養費の自己負担上限額の引き上げをしないことを求める陳情	長野県社会保障推進協議会 代表委員　宮沢　裕夫　佐野　達夫 細尾　俊彦　小林　吟子 松丸　道男　北沢　忠	社会文教 採択	採択

議会を傍聴しませんか

事前の申し込みは不要です。
当日議場（役場４階）へお越しください。

会議録は町のホームページまたは
下のQRコードからご覧になれます。

坂城町議会　検索

次の定例会は、12月初旬開会の予定です。

ここが聞きたい！
一般質問

（一般質問の文章は、質問者の責任で作成しています）

産後ケア

利用の現状は

居宅訪問と通所　計12人

大森　茂彦　議員

問　出産後の母親の心身の不調や育児の不安を軽減させる産後ケア事業。昨年度の対象者数と利用状況は。

保健センター所長　令和6年度対象者数56人のうち、利用者数については短期入所型は利用がなく、居宅訪問型は8人、通所型は4人であった。

短期入所型は7日間以内（延長あり）、居宅訪問型と通所型は合わせて7回以内（追加あり）である。

問　個人負担はどのように決めているか。

保健センター所長　利用料金は一部を利用者負担とし、利用者負担額は、産後ケア事業を行う医療機関や助産所と町が直接契約により決めている。

自己負担額の契約基準は、生活保護受給者と住民税非課税世帯は無料、課税世帯は短期入所型で利用料金の2割、居宅訪問型と通所型は3割としている。自己負担額は昨年度から引き下げ、利用しやすく努めている。

シニアクラブの現状は

問　町内のシニアクラブ数と町連合会への加入数は。

福祉健康課長　9クラブが活動し、うち4クラブが町連合会に加入している。

にぎやかな敬老会

質問項目

大森　茂彦　議員 10ページ
① 町民の命を守るために
② 安心して子育てをするために
③ 高齢者がいつまでも元気に
④ 子どもの権利条約に触れて

大日向　進也　議員 11ページ
① 防災力強化について

中村　忠靖　議員 11ページ
① 2025 さかきモノづくり展について
②「ユースセンター」について

塚田　舞　議員 12ページ
① ヤングケアラー支援について

宮入　健誠　議員 12ページ
① 熱中症対策について
② DX推進について

祢津　明子　議員 13ページ
① 教育について
② 教室の断熱改修について

水出　康成　議員 13ページ
① 健康保持増進について
② 福祉避難所について

防災力強化

各自治区への支援は

今後も支援していく

大日向（おびなた）　進也（しんや）　議員

問　町では、防災について各自治区にどのような支援策があるか。

住民環境課長　災害に強い安心・安全の地域づくりのため全区長を対象に防災説明会を実施している。

　また、区から要請があれば災害発生時の役割や対応について災害時の心得を学んでいく出前講座を実施している。

　近年は、災害に対する危機感の高まりもあり、「地域づくり活動支援事業」を地域の防災対策に活用し、各自治区での防災・炊き出し訓練の実施や、防災用品の導入及び備蓄、ハザードマップの作成がされ、自治区における災害時の「共助」の体制が強化されている。

　自主的に取り組む地域防災活動やその体制づくりに向け、今後も支援していく。

全区を対象に行った防災説明会

問　「災害時住民支え合いマップ」とは。

福祉健康課長　災害時に支援が必要となる高齢者や障がい者等の要配慮者、避難所、危険箇所などを表記した地図である。

　町社会福祉協議会がサポートを行い、現在6地区で作成され、平常時においても地域住民同士の支え合い活動が推進されている。

モノづくり展

今後の展望は

ウェルビーイングに繋ぐ

中村（なかむら）　忠靖（ただやす）　議員

問　開催の目的と内容は。

町長　さかきモノづくり展は、コロナ禍を挟み8年ぶりにリアル開催となる。町内企業の高度な技術力や魅力を紹介し、ビジネスチャンスの拡大を図るとともに、住民や子どもたちに製造業への関心を育むこと、学生と企業をつなぎ人材確保の機会とすることを目的としており、出展企業の展示や講演会、体験教室を通じ、小中高校生がものづくりに触れることで、将来の人材育成や地元就職へと繋げていく。

問　今後の展望は。

町長　モノづくり展やオープンファクトリーの取り組みが継続されていくことは、町が、さらに発展を遂げていくための重要な活動、事業であると考える。今後も関係団体とともに、協力と支援を継続し「モノづくりの町のウェルビーイング」へも繋げていく。

2025さかきモノづくり展
（主催／公益財団法人さかきテクノセンター）

ユースセンターについて

問　設置の考えは。

子ども支援室長　ユースセンターは、家庭や学校ではない第3の居場所で、子ども・若者が主体的に地域活動を行う場である。運営には、「やってみたい」という気持ちが不可欠で、既存の居場所を確保する中で、地域活性化にもつながるとされるよう研究していく。

ヤングケアラー

支援につなげる仕組みは

体制の構築を図っている

塚田（つかだ） 舞（まい） 議員

問 把握方法は。

町長 ヤングケアラーは家庭内のデリケートな問題で、表面化しにくい。本人や家族に自覚がないこともあり、自ら支援を求めることは難しい。町では、子どもと日常的に関わる学校を中心に、教職員やスクールカウンセラーが面談や生活・学習面の変化を見て、早期発見に努めている。

問 発見・気づきの体制は。

子ども支援室長 日頃からの見守りで生活実態を把握し、スクールカウンセラーや教育・心理カウンセラーが面談で子どもの困りごとや気持ちの変化を聞き取り、早期発見につなげている。さらに、子育て支援センターを中心に関係機関と連携し、家庭環境の把握に努めている。また、子ども自身が「自分はヤングケアラーかも」と気づき相談できるよう、学校を通じたチラシの配布を行っている。

問 支援につなげる仕組みは。

町長 子育て支援センターを支援の相談窓口とし、学校や保育園から関連情報が寄せられる体制となっている。必要に応じて保護者や児童生徒との面談を行い、事実確認をしたうえで、支援の方法を検討していくこととしている。

パンフレット（左：小学校／右：中学校）

熱中症対策

小・中学校への対応は

暑さ指数に基づく取組

宮入（みやいり） 健誠（たけし） 議員

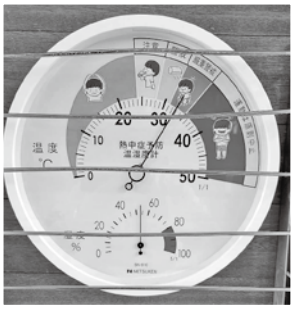
問 取り組んでいる対策は。

教育文化課長 例年5月頃、文部科学省から熱中症事故の防止について通知されている。

本年度も「学校教育活動等における熱中症事故の防止について」熱中症事故を防止するための環境整備や、活動実施に関する判断等が通知された。当町においても各小中学校への配布とあわせて、毎月、町教育委員会と各校の校長、教頭との打ち合わせ会である校長会・教頭会において注意喚起と予防対策の依頼を行った。

各学校の対策として、体育館では大型扇風機を使用、教室では窓を開けたり、室温が28度を超える場合は冷房を使用するなど校内環境に注意し、適切な水分補給の時間を設け児童の体調にも気を配っている。

また、全ての小中学校において、暑さ指数（ＷＢＧＴ）を計測する機器を設置し、その指数により授業や活動内容を調整している。具体的には、暑さ指数が31以上となった場合は、屋外運動や体育館での活動を中止し、休み時間の外遊びも制限する対応をとっている。



児童目線の暑さ指数
（村上小学校）

子どもの権利

条例を制定しない理由は

既存法規に基づき推進

祢津（ねつ） 明子（あきこ） 議員

問　町は「坂城の子は坂城で育てる」というスローガンを掲げているが、「子どもの権利」をどのように捉えているか。

教育長　「子どもの権利」については、すべての子ども施策を推進する上での基本的な視点として捉えている。町の教育理念のもと、学校、家庭、地域が一体となり、妊娠・周産期から就学期前、小中学校、高校、就労まで、子どもの成長過程に合わせた切れ目のない一貫した様々な子育て支援施策を進めている。

その上で、常に子ども一人ひとりの権利を尊重し、最善の利益が実現されることを目指し、取り組んでいる。

問　子どもの権利条例を制定しない理由は。

教育長　現状において、子どもの権利条例を制定することは考えていない。

子どもの権利の尊重、自治体・保護者・住民の役割については、「子どもの権利条約」や国の「こども基本法」、「長野県の未来を担う子どもの支援に関する条例」に規定されており、町もそれらの規定の趣旨に沿い、子どもの視点に立った施策を展開してきた。

今後も、着実に子ども施策を推進することが重要であると考えている。

「子ども」をめぐる総合的な情報誌
【長野の子ども白書】

健康増進

生活習慣病の予防は

早期発症予防に取り組む

水出（みずいで） 康成（こうせい） 議員

問　小中学生の生活習慣病予防健診の結果を受けて、改善に向けた今後の取り組みは。

保健センター所長　早期発見の重要性などを住民にも広く周知し、学校との連携を取りながら、生活習慣病予防健診の充実を図り、早期からの発症予防に取り組む。

問　国保保健事業の推進状況は。

町長　生活習慣病共通リスクを抑制するため、特定健診の受診率向上を目標としてきた。

受診率は平成30年度54・2％から令和5年度60・1％へ向上し、国の目標である60％を初めて上回る結果となった。

また、令和6年度からの保健事業計画には、自分の健康と照らし合わせたり、生活との関連性を考える健康教育を新たに加え、引き続き町民への健康増進に努める。

要配慮者の避難所

問　要配慮者の直接避難への考えは。

福祉健康課長　災害時要配慮者の移動は困難で、心身の負担は大きいと感じる。現状では福祉施設等への直接避難は難しいが、事前に相談をいただき、各施設と連携を行い、受け入れ態勢を整え安全な避難につなげたい。

子育てしやすい町づくりを目指して

社会文教常任委員会

社会文教常任委員会は、8月8日（金）に南箕輪村と塩尻市の北部交流センター「えんてらす」を視察した。

◆南箕輪村は、1875年村政開始以来、一度も合併や分離を行わず、今年で150周年を迎えた。人口は村政施行当時の2333人から右肩上がりに増加し、本年1月1日現在で16051人、全国183村の中で6番目に多い規模となっている。

南箕輪村

人口増加の背景には、「住んでいる人が幸せになること」「村の子どもは村で育てる」を理念に、保育料や子ども医療費負担の軽減など、昭和から先駆的かつ手厚い子育て支援に取り組んできたことがある。子育て世帯が安心して暮らせる環境づくりに時間と労力を注ぎ、その想いと政策は今後も引き継がれていく。

人口増加に向けた取り組みのあり方は、町でも参考になるものであり、今後研究していきたい。

塩尻市「えんてらす」

◆北部交流センター「えんてらす」は、多様な住民が安心して暮らすためのコミュニティづくりを目的とし、こどもがつなぐ「あたらしいふるさと」を掲げている。

支所、公民館、図書館、子育て支援機能を一体化した複合施設で、コーディネーターが調整役を担い運営。異なる目的を持つ施設が協働することで多様な課題解決や価値観の創出につながり、世代や立場を超えた交流が生まれる場となっている。

地域に根ざした活動を重ね、子どもを中心に人々が集い、育て合うことで、100年後も誇りと愛着を持って暮らせるふるさとを育んでいる。

坂城町複合施設においても、その成功事例を参考に、将来にわたり住民が使いやすく夢のある施設となることを期待する。

（宮入（みやいり）　健誠（たけし））

AI活用型オンデマンドバス
「のるーと塩尻」バス停

「えんてらす」外観

地域資源で集客・企業誘致

総務産業常任委員会

五島慶太未来創造館

総務産業常任委員会は、8月1日(金)に青木村の五島慶太未来創造館、道の駅あおき、株式会社竹内製作所青木工場(本社・坂城町)を視察した。

◆五島慶太未来創造館は本年で開館5周年を迎え、東急グループの礎を築いた五島慶太翁の業績や生涯を紹介している。「新旧一如・真善美」の理念は印象深く、地域発展に尽くした姿勢を学ぶ機会となった。

隣接する民族資料館には昭和時代の懐かしい生活道具が展示されており、町でも参考にしたい点であった。

◆道の駅あおきは、青木峠の麓に平成18年に開業。村内外組合員による運営組合の施設で独自に仕入れ先を開拓し、充実した品揃えで地元住民や観光客に愛されている。コロナ禍に実施した食堂の出前はHPやSNSなどの活用により売り上げは順調とのこと。

ふるさと体験館では蕎麦打ち体験やおやき作り、農業体験などができ、地域の魅力を広く発信、交流人口の拡大に寄与していることを確認した。

◆竹内製作所青木工場では、ミニショベルなど建設機械の製造工程を見学した。女性社員の活躍に加え、CO_2フリー電力や太陽光発電を活用した環境配慮型の工場運営、サステナビリティサイトでの情報発信、徹底した製品開発と受注生産方式による効率的なものづくりなど、多角的な取組を進めていることを知った。本社を置く坂城町にとっても誇るべき存在であると感じた。

今回の視察を通じ、観光資源の活用や産業振興の在り方を学び、地域経済に果たす役割の大きさを実感した。今後の町づくりに生かしていく。

(星(ほし)　哲夫(てつお))

竹内製作所 青木工場

議会日誌(主な活動)

7月

2·9·16日　広報発行対策特別委員会
9日　葛尾組合議会臨時会
10日　新国道上田篠ノ井間建設促進期成同盟会総会
10～11日　上田地域広域連合行政視察(管外施設視察)
11日　千曲衛生施設組合議会臨時会
14日　新複合施設建設委員会/町村議会議員研修会
15日　千曲坂城消防組合議会臨時会
16日　六ケ郷用水組合議会臨時会
17日　議会全員協議会/社会文教常任委員会
22日　県道上室賀坂城停車場線改良促進期成同盟会総会
22·23·28·29·30·31日 決算審査
23日　上田地域広域連合管内施設視察
25日　長野広域連合議会視察
29日　町例月現金出納検査
30日　町土地開発公社理事会

8月

1日　総務産業常任委員会閉会中の調査
4日　新国道上田篠ノ井間建設促進期成同盟会要望活動
8日　社会文教常任委員会閉会中の調査
15日　町二十歳のつどい
20日　議会全員協議会
坂城駅周辺活性化特別委員会/広報発行対策特別委員会
国道バイパス·県道整備促進期成同盟会総会
21日　長野県社会保障推進協議会陳情
25日　議会運営委員会
26日　町例月現金出納検査
27日　町商工業振興審議会/町総合計画審議会
28日　決算審査監査報告受領/全国町村議会広報研修会
31日　町総合防災訓練

9月

1～22日　9月議会定例会
1·11·29日　社会文教常任委員会
17·25日　広報発行対策特別委員会
19日　長野県町村議会議長会全体研修会
22日　議会運営委員会/議会改革運営委員会
24日　上田地域広域連合議会代表者会
26日　町例月現金出納検査/議会運営委員会

新連載！

わがまち さんぽ 第1回

新連載では、坂城町の身近な話題をお届けします。

＝ 真夏のひととき ＝

網掛区納涼祭

お盆休みの８月15日、網掛公民館主催による納涼祭が、びんぐしの里公園にて開催されました。

網掛区会（福沢川をみんなで遊び楽しむ事業）との始めてのコラボとして、魚のつかみ取り体験が企画され、小さな子どもたちは、日常体験できない試みに歓声があがりました。

当日は、いわな・やまめ・ニジマスが250匹用意され、取った魚は、区会議員があらかじめ用意した炭火焼にて調理されたものと引き換えに渡されました。

また、来場された一般区民にも引換券と差し替えに一軒に一匹が配られました。

魚のつかみ取りは、40年ほど前に、盆踊りの企画の一環として、公民館役員の協力のもと、舟を持ち込んでの開催でした。

当時も、子どもたちの大きな声が響き渡った事が思い出されました。

あれから40年の時が流れ、こうして再び魚のつかみ取りが企画・実施された事は、今回参加した小さな子どもたちが、いずれ網掛区において活躍されることを願ってペンを置きます。

（宮入（みやいり）　健誠（たけし））

日和

今年の夏は記録的な猛暑となり、気候変動が私たちの暮らしに直結していることを改めて感じた。

温暖化の影響は、農業にも及び、食料の安定供給にも不安が広がっている。

一方で、物価高が過去最高を更新。

生活への影響も深刻さを増し、将来への不安が募る中で、環境と経済の両立が問われている。

だからこそ今、地域からできる脱炭素の取り組みや、地産地消を大切にし、誰もが安心して暮らせる持続可能な社会の在り方を共に考えていくことが求められている。

（星（ほし）　哲夫（てつお））

発行責任者　議　長　中嶋　登
広報発行対策特別委員会
委 員 長　大日向進也
副委員長　塚田　舞
委　員　星　哲夫
　　中村　忠靖
　　宮入　健誠

◎発行／長野県埴科郡坂城町議会
責任者／中嶋　登　編集／広報発行対策特別委員会
TEL（代表）(0268)82-3111（直通）(0268)75-6213　FAX(0268)82-8307
E-mail/gikai@town.sakaki.lg.jp
◎印刷／株式会社シーデンス